

中央線電化 開通祝賀式雜觀

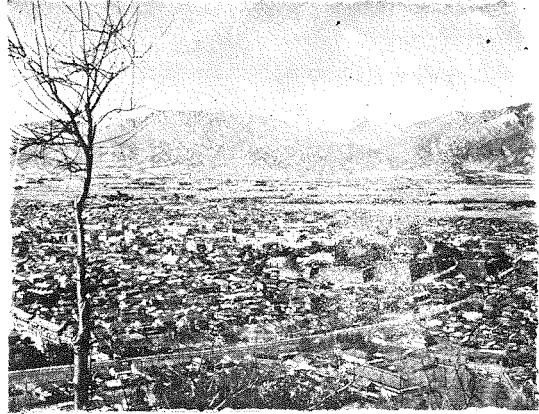
○
中央線電化の御利益は、浅川驛から觀面に現はれる。四十分一の急勾配や四十二個所のトンネルや、それが今までの蒸氣列車に於ては旅客にも、乗務員にも言ふに言はれぬ難所であり、悪所であつた。如何に山嶽の自然美を味はんとしても、長いトンネルと煤煙とに對しては何うにもならなかつた。

○
今日電化された我々の列車は何と云ふ爽快な事であらう。四十二ヶ所のトンネルも、四十分一の勾配も、山嶽美を送迎するに寧ろ好箇の變化があつて良いものとなつた。車窓を開け放して新緑澄み切つた、山間の空氣を充分に吸込む。

○
甲府の盆地から南アルプスの連山を望むと遙かに雲表に輝く雪の峯々が、何と云ふ氣高い姿であらう。トンネルと煤煙に惱んだ蒸氣列車時代の旅客には殆んど想像のつかない位に、爽快な車窓の眺とはなつた。それだけ中央線の電化工事は、局外者の想像のつかない程に困難な仕事もあつた。

○
祝賀會の式場は甲府驛の前なる舞鶴公園の廣場に設けられた、受付の設備、宴會場座席の分類、擴聲機其他の配置等も簡にして要を得たものであつた。

○
會場の來賓中には、明治三十六年此の中央線の難工事を完成した時の所長たりし古川阪次郎老博士も元氣な姿を見せ其他新舊の局長課長連中も多く列席した。江木鐵相が菊の大花をブラ下げて着席した。



甲府市の穴觀

○
森田所長の工事報告は技術家のスピーチとしては實に要領を得たものであつた。工事に關する各種の數字も原稿なしで悠々と述べ、特に合理的な各種施工に因つて、豫定の設計を經濟的に仕上げ、工費を節約する事が出來た點を簡略に述べ、千餘の會衆に非常な印象を與へた。

○
江木鐵相や其他來賓の祝辭は總て朗讀であつたが何れも簡單なもので、割合に短時間に終つた。何の祝辭も悉く、電化の御蔭で煤煙の苦惱を避ける事が出來た有難味を痛切に述べてある。特に電氣協會長の祝辭は拔群の名文で、本日の歴卷であつた。

○
閉會後の餘興は中央ステージに花の如き振袖の舞妓がギツリ詰り、音曲に調子を取つて甲斐の民謡を總ザライした。これが爲に來賓には甲斐民謡集を一冊宛備へてある。

○
接待係の藝者や女中、舞妓等の數は何百名か居た。恐らく甲斐市内の總出動かと思はれる位のものであつた。

